

令和3年度 第3回大磯防災ミーティング 意見・質問に対する回答



令和3年度第3回大磯防災ミーティング 意見・質問票

記入日（必須）

氏名（必須）

性別（任意）

地区・団体名（必須）

役職（任意）
例）〇〇地区自主防災会 会長
特になければ空欄で構いません。

連絡先（必須）

メールアドレス（任意）

1 令和3年度津波土砂避難訓練の振り返りについて
令和3年度津波土砂避難訓練の振り返りについて、ご意見やご質問があれば記入してください。

[裏面に続く](#)

2 令和3年度防災の取組状況について
※特に、津波避難ビルの見直しについてご意見等をお願いします。

3 令和4年度防災訓練等の計画に向けて
令和4年度防災訓練等の計画に向けて、ご意見やご質問があれば記入してください。

4 その他
その他について、ご意見やご質問があれば記入してください。
※防災全般に対する女性からの積極的なご意見をお願いします。

5 動画の視聴日時
YouTube の動画を視聴された方は、おおよその時間を記入してください。
例）令和4年1月21日（金）19:00～19:30

令和4年2月7日（月）までの提出に御協力をお願いします。

令和4年2月
政策総務部危機管理課

1. 令和3年度 津波土砂避難訓練 の振り返りについて



訓練全般に対する意見

町で訓練内容を指定した方が町全体のボトムアップとなる

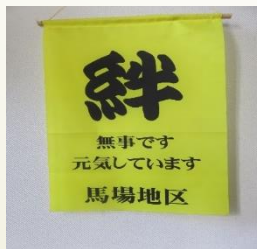


地区等からの意見を集約して訓練に反映させることが防災ミーティング実施の意義

安否旗の保管場所や掲出方法について日頃から確認が必要



地区ごとに周知・啓発を行う



地区ごとに
住民への周知や
実態調査が必要



訓練全般に対する意見

津波土砂避難訓練の目的の明確化



訓練実施後のフィードバック会議（振返り）など、情報共有の場の創出

コロナによる住民の訓練への関心低下



訓練の重要性の周知

万全な感染対策のアピール

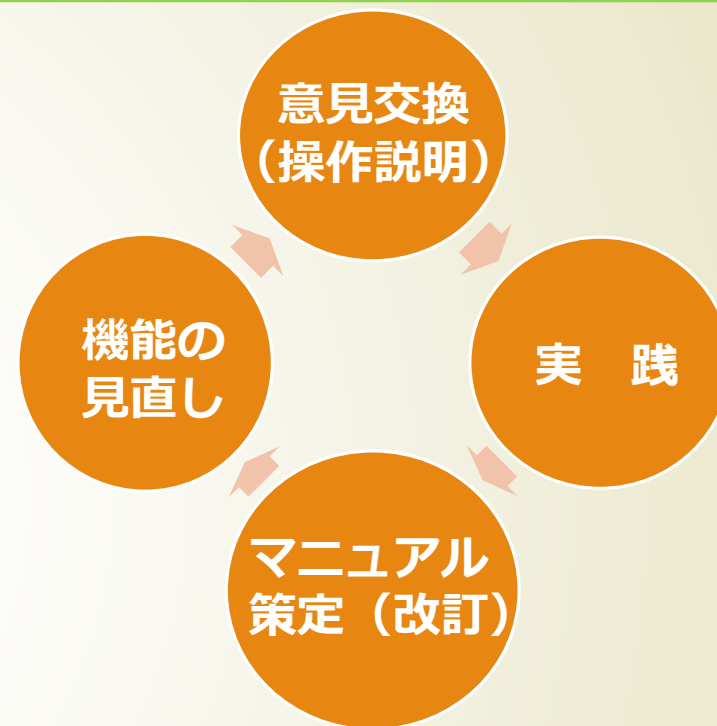
関心を引く訓練内容

おいそ防災・行政ナビについて

使用頻度が少ないため操作にとまどうことがある



意見交換の場（操作説明）を設け、実際に使い、マニュアルを策定（改訂）し、機能を見直していくという一定のサイクルが必要



災害発生時における警察との情報共有（災害写真）による初動体制の確立



即座に情報共有できる方法の模索

おいそ防災・行政ナビについて

災害時におけるタブレットの持出しや複数か所での撮影が困難であるため、スマートフォンアプリの活用を進めてほしい。



防災担当者のスマホでも情報共有ができるよう検討

一般からもアプリから情報共有がしたい



災害時に情報が
錯綜する可能性



2. 令和3年度 防災の取組状況について



津波対策について

住民の避難体験等が無いと受入れ態勢が見えない



実際に登ってもらうなど体験の場を創出



まず高台へ逃げるという意識付けが重要



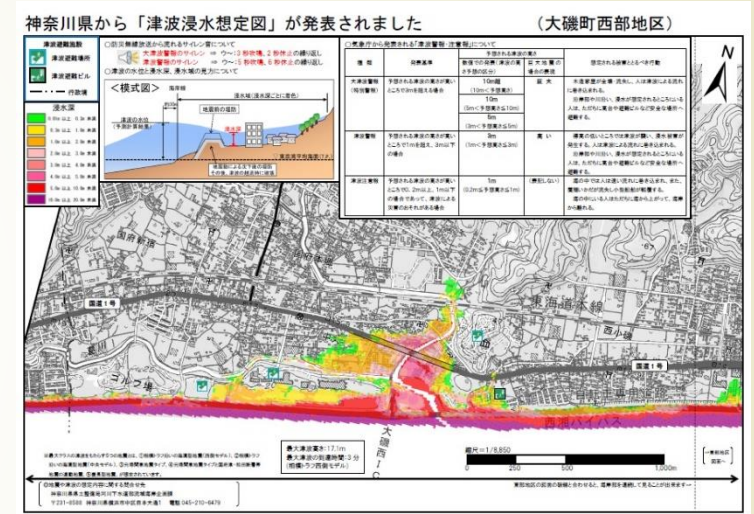
いつとき避難場所の見直しの推進および住民への周知

津波対策について

高齢者が坂道や津波避難ビルを上ることは困難



共助による避難が重要！



まずは浸水想定区域外に逃げる。区域外まで距離がある場合は、津波避難ビルのふもとまで逃げてもらい、他の方が補助をするなど共助での対応が必要。

3. 令和4年度 防災訓練等の計画について



総合防災訓練の実施内容について

安否確認において町が必要とする情報の項目を明記すること

収集すべき情報を確認



訓練に反映

早期に参加型訓練の具体化をしてほしい



防災用品の展示や資機材体験、消火器訓練などを検討

詳細は次回の防災ミーティングで協議



総合防災訓練の実施内容について

啓発物品を配布する場合は、「配布」が目的とならないこと



子どもの関心を引く



災害に対する備えの啓発



津波土砂避難訓練の実施内容について

避難所訓練について、避難場所から避難所までの距離が遠い地区に負担がかかる。



役員をいつとき避難場所と避難所開設に分け、避難所開設を先行してもらうなど、対策を講じたうえでの実施を検討。

津波の基準水位に合わせた訓練の実施が必要。区域外は訓練の対象外とする。



いつとき避難場所の見直しにより基準水位に合わせた訓練とする。
区域外の住民についても、災害時に必ず自宅にいるわけではないため、避難場所を知ってもらう意味でも、全町的な実施が必要。

津波土砂避難訓練の実施内容について

土砂災害警戒区域内においては、別途訓練を実施すべき。



地震災害時にも土砂災害が発生するおそれがあるため、津波と合わせて実施する。

声かけ避難の継続が必要



地域の危機意識の向上に繋がるため、積極的に隣家へ声かけを行う。

避難所の開設・運営について

コロナ禍における運営方法の
具体的な指示が必要



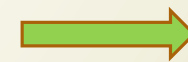
避難所運営委員会との協議



開設・運営方法について、リーダー不在時でも各々がイメージできることが重要



地区ごとに開設・運営方法の確認や資機材点検等を実施



課題の抽出

その他訓練・啓発について

コロナ禍で人を大勢集めない訓練が重要



- コロナ対策を前提とした訓練の実施
- 地域ごとに小規模な訓練の積み重ね



風水害や火災における避難訓練も必要



- 実施内容やスケジュールの調整
- 地区の訓練にて実施



その他訓練・啓発について

子どもや若年層に限らず、より多くの人に関心を持ってもらうことが重要。

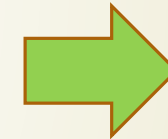
テーマ性をもって
ターゲットを絞る



テーマ
参加型訓練



ターゲット
子どもや
若年層



実施方針

その他訓練・啓発について

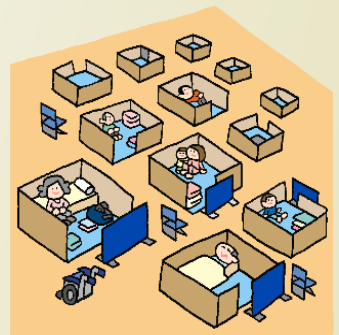
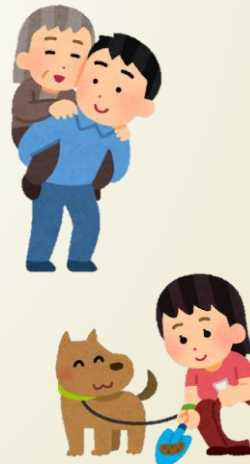
災害が発生してから公助が整うまでの体制づくりが必要



避難所生活での共助が主となる。避難所生活におけるルールの周知徹底が重要。

- 要配慮者を優先する行動を心がける
- お互いのプライバシー保護への気遣い
- 基本的な感染症対策（手指消毒、マスク着用など）
- ペットは飼い主同士がルールを守って生活する

など



4. その他

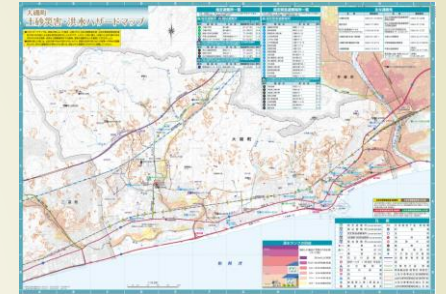


その他

住民一人の防災意識の向上が必要



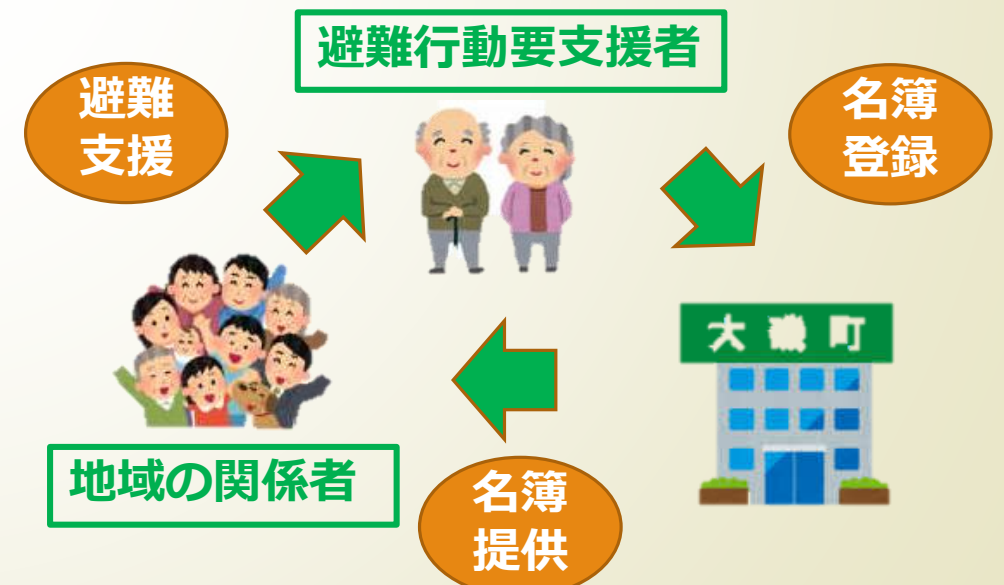
- 災害リスクを知ってもらう
- ハザードマップやマイタイムラインなどの周知



要介護の家族の避難対策が知りたい



避難行動要支援者名簿への登録



その他

避難行動要支援者は自己申告であるが、いざというとき避難が遅れるのではないか。



個人情報を取り扱うこととなるため、本人の同意が無ければ避難行動要支援者の登録はできない。

炊出しや救急訓練など町内会で実施してはどうか



実施地区の訓練視察を推進していく

参考

意見・質問集計結果

訓練全般	おいそ 防災・行政ナビ	津波対策	防災の取組み
4 件	6 件	13件	3 件
総合防災訓練内容	津波土砂避難訓練 内容	避難所開設・運営	その他訓練・啓発
5 件	6 件	2 件	9 件
その他	計 6 1 件		
13件			

参考

令和3年度第3回大磯防災ミーティング 意見・質問に対する回答

令和4年2月
大磯町政策総務部危機管理課

1 令和3年度津波土砂避難訓練の振り返りについて

○ 訓練全般の意見

- ・ 町で訓練内容を指定した方が町全体のボトムアップになる。
⇒地区等からの意見を反映し、より実践的な訓練を実施するため、防災ミーティングを実施している背景からも、訓練計画については従来どおりとします。
- ・ 津波や土砂災害時に保管している安否旗の掲出は難しい。いち早く設置するための保管場所や方法について日頃から確認する必要がある。
⇒保管場所は、玄関などすぐに取り出せる場所に置いておき、ドアやポストなどの外から見てわかる場所に掲出することを地域住民の共通認識としておくことが重要です。
また、地区ごとに安否旗の保管状況や意識調査などを行い、再配布や安否旗掲出の啓発を行う必要があります。
- ・ 津波土砂避難訓練の目的が明確になっていない。実施地区において、このように実施しましたとした方がよい。
⇒防災ミーティングでは時間が限られるため、来年度は訓練後に地区との情報共有を行う機会（フィードバック会議など）を設けたいと考えています。
- ・ 地区において、コロナへの意識が強く、訓練への関心の低下がみられる。
⇒訓練実施に当たり、万全な感染対策を行っていることを周知することが重要です。また、訓練の重要性についてはより一層の啓発を図り、そのうえで、関心を引くような訓練の企画及び実施に繋げたいと考えています。

○ おおいそ防災・行政ナビのタブレットについて

- ・ タブレットの使用頻度が少なく、操作に戸惑うことがあるため、操作説明会を実施してほしい。
⇒今後、操作説明会や個別対応など操作方法を説明する機会を設け、地区の皆さまとタブレット使用について意見交換を行い、マニュアルの見直しを進めていきたいと考えています。

- ・ 災害発生時には迅速かつ正確な情報収集および初動体制の確立が重要。そのためには、警察と行政が相互に情報共有することが重要。行政がタブレットで撮った写真についても警察で確認ができるような体制があればよい。
⇒写真等の情報共有については、町としても即座に共有できるような体制を確立したいと考えています。その方法については、今後協議を図り、また、併せて MCA 無線も活用し、災害時の相互連絡体制の強化を図りたいと考えています。

- ・ 災害時の避難行動において、タブレットの携帯に気が回るのが疑問。常時携帯ができる携帯袋の導入を希望。
⇒現状、持出し方法については、各自の鞆や袋に入れていただくことを想定しています。

- ・ 災害時にタブレットの持ち出しは難しい。また、複数か所の撮影ができない。スマートフォンのアプリの活用やタブレットの増台を希望する。
⇒町としても課題として捉えており、今後、アプリでも同様に機能が使えるよう提供企業と調整を進めます。また、機能追加の対象者も区長以外の役員が使用できるよう形にしたいと考えています。
また、タブレットの増台については必要に応じて追加配布を検討します。

- ・ 一般からもスマートフォンのアプリから情報共有がしたい。
⇒一般ユーザーへ情報連携に係る機能追加の対象を広げると、災害時に情報が錯綜し、必要な情報が集約できなくなるおそれがあるため、機能追加の対象は防災関係者の一部に限定することとしています。

- ・ タブレットにおける避難所の開設報告の様式について、「避難所を開設/閉鎖しますか？」の設問について、「開設しない」の場合の報告ができないため、要改善。
⇒設問の様式については、より実態に合ったものになるよう改善を図ります。

2 令和3年度防災の取組状況について

○ 津波対策について

- ・ 具体的な行動（住民の避難体験等）がないと、受入れ態勢が見えない。
⇒現在、津波避難ビルの見直しを進めているため、今後住民への周知も含め、実際に登ってもらうなど体験の場を設けたいと考えています。
- ・ 津波避難ビルや津波避難タワーだけでなく、高台に逃げてもらおうという意識付けが重要。
⇒地区のいっとき避難場所の見直しを推進し、また、町や地区から周知を図ることが重要です。
- ・ 不動川・葛川の下流、河口付近の住民に対する津波避難対策
⇒現在、津波避難ビルや津波避難場所の見直しを進めています。また、要配慮者利用施設（老人ホームなど）に対し、個別避難計画の作成を推進しています。